

助成事業実施報告書

団体名 一般社団法人つなぐ子ども未来

代表者・役職名 氏名 代表理事 安藤綾乃

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

コロナ禍における困難を抱えた家庭への食を通じた生活支援事業
～公共冷蔵庫「みんなのれいぞうこ」設置拡充に向けて～

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

「公共冷蔵庫:みんなのれいぞうこ」という、新しい食料支援のインフラ整備をします。

これは24時間受取り対応の可能な屋外に設置された冷蔵庫から、自らの都合の良い時間に非対面で食料支援を受けることができる仕組みになっています。今回は一台設置するにあたり、購入費用の一部に加え、設置に必要な防犯カメラやセンサー付きライトの設置、二重ロックの鍵ボックスの電源付帯工事や移動設置に係る経費も多くかかるため、そういったものも含めて申請に加えしました。困難を抱える家庭への食料支援を継続し持続可能なインフラ整備を行うことで、沢山の方の生活支援になると考えました。

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

本助成により購入をした冷蔵庫以外にも市内4か所に冷蔵庫が設置されましたが、本助成による設置に限れば延べ432家庭に対して食料支援が実施できました。尚、他の冷蔵庫も入れると1252家庭の食料支援を実施しました。コロナ禍における困難を抱えた方へ、的確で安全な食料配布を迅速に実施し、「子どもたちも、普段買わない美味しい物が食べることができた」「お腹いっぱい食べさせてあげることができる回数が増えた」「仕事が終わった後の遅い時間でも利用することができるので、助かります」など、多くの利用者の満足度の高い声をいただきました。食品提供を通して、個別相談にもLINEで適宜応じたことで、関係性も深まり公的支援につなげる機会もできました。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

今後も物価高など社会的弱者にとって生活困窮が継続する状況であるので、引き続きこの「公共冷蔵庫:みんなのれいぞうこ」を拡大するニーズは高いです。しかし当法人のみで展開をするには限度もあり、公共機関や行政、地域団体、企業もまきこみながら、具体的な連携を進め、継続活動をしていく必要があります。資金的には休眠預金事業など大型助成も利用しながら、社会的課題を地域から解決していく事を継続していく必要性を感じています。

登録者も家族のみでなく、若者困窮者、また精神疾患を患う家庭につながるが増えつつあり、多重課題のある子ども若者・家庭に対し、食品としての単発サポートだけでなく、専門的な支援へつなげるような展開が今後の課題になります。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

【みんなのれいぞうこHP】[みんなのれいぞうこ \(minna-no-reizouko.com\)](http://minna-no-reizouko.com)

